



千葉大学 工学部 デザイン工学科建築系

小塚真太郎

青山同潤会跡地に大規模な商業施設がつくられようとしている。もともと新しいものを受け入れる土壌がある表参道にまた同じようなファッション・消費を重ねるのはあまりにももったいない。このプロジェクトではここに商業施設ではなく、現在日本で活躍しているクリエイターによる、常に新しいものを制作・発信し続ける創造研究所 < Omotesando Creater's Lab > を提案する。

表参道に、日本に新しい刺激を与え新たな動きをつくりだしてゆくためにここでは3つの触発をテーマとし、建築をつくってゆく。

1, クリエイター × クリエイター 2, クリエイター × 来館者 3, 都市 × 建築



講 評

永いあいだ話題になっていたこの「同潤会青山アパート」は、森ビルがデベロッパーとなり、安藤忠雄氏の設計で工事が進んでいる。建築家としては、誰もが良い思い出を残すこの場所で提案をするのは、はなはだ頭を痛めたであろうことは創造がつく。少なくとも実施計画段階では、デザイン・コンセプト共に多くの人の期待値を上回ることは無かったのでは・・・？と思う。このような背景の中、建築設計という正当な手法で新たな提言を行なうことで、若者が世の中に一石を投じようとした姿に将来の建築界の希望が見える。「自分ならこうする・・・」と云うだけでなく、実際の計画で攻めたことに意義があるのではないだろうか。計画は、クリエイターによる制作・発信と、これに触発し、触発される人・まちという事がテーマとなり、青山という特別にセンシティブな場所でのプログラムに相応しかった。また、空間や建築物のデザインの構成も、この場所に対して見劣りすることなく検討されていた。建築費の回収という部分で疑問が残るが、卒業制作の趣旨である勢いが買える。

[審査員 森田 敬介]